

穂ち落

薬物を使っている時は気持ちの良い時間をじゃまされたくなくて、薬物がきれている時は使いたくてイライラして、いつも怒っていたのです。いつも自分が正しいと勘違いをしていて、自分の思い描いたようにまわりが動いてくれないと怒りが噴出してしまふようになっていたのです。

薬物依存症になると矢う物があります。「個人的な成長」「創造性」「人の善意を感じる能力」「自由」の四つです。以前はこの中の「自由」に触れさせて頂きましたが、今日は「人の善意を感じる能力」が無くなってどの様になったか少し書かせて頂きます。「人の善意を感じる能

力」と書くど解かりづらいのかもしれないですが、これは「自己中心的」と考えて頂くど解りやすいかと思ひます。薬物で壊れた、いやその前から壊れていたのかもしれない

正当な怒り？

三浦 陽一
(沖縄タルク・チーフディレクター)

せんが、薬物を使用していた当時、私は親が私の面倒をみるのは当たり前のように勘違いをしていました。捕まると留置所にいるときなどは、私の買ったばかりの車のバッテリーがあららないよう

に親がたまにエンジンをかけてくれるのを当たり前のように思っていたので、留置所まで時間をかけて恥ずかしい気持ちをおして来てくれた母にそれを言い放ってしまった事

を今は悔ひています。「正当な怒りはない」と、タルクを支援して下さいる神父さまよりお伺ひした事があります。つまり、怒ってしまつた時点でその言ひ分はどんなに正しくても正当では

なくなるという事でもあり、怒るという行為はそれだけでかなり損なわけでありませう。

では、そんな損な事をなぜするのかと考えると、自分の意見を押し通そうとしている「自己中心的」からというのが私には多いようです。だから重い荷物を持っていると誰にぶつけてよいのか分からない理不尽で自己中心の極みのような怒りまでおぼえてしまふのです。

しかし、困っているのは「のように単純な怒りだけではなく、私の場合、恥ずかしいときにも、悲しい時にも怒ってしまつたという、感情がねじれたような怒りまであるので

す……どうしよう。